



私たちも、このまちを  
守りたい!!

消防団と同じ制服に身を包み、やさしい笑顔をと  
たえる彼女達は、加東市女性消防隊。  
第十八回全国女性消防操法大会に出場するため結  
集した彼女達は、隊長・出場隊員・補助隊員の総勢  
十名。大会のために積み重ねた練習は、およそ五か  
月に及びました。  
今回はその活動を通して女性隊員のみなさんが見  
た操法や消防活動について、お話をうかがいました。

女性消防隊になる!

Q 男性の操法が行われていることは女  
性隊員のみなさんも存知だったん  
でしょうか。  
また、女性消防隊に誘われたとき、  
どのように思われましたか。



指揮者 川田 敦子さん

「操法」という言葉は、聞いた  
ことはありましたが実際に見たこ  
とがなく、自分がそれをすること  
になったとき、どうしようかと正  
直、迷いました。

指揮者の川田さんの言葉に代表さ  
れるように、この質問には、女性隊  
員のみなさんが「男性がしている操  
法ならば知っている」というお答え  
で、中には実際に見たことがないと  
いう方もおられました。

そんな未知の世界に挑戦すること  
になり、みなさん大変戸惑われたそ  
うです。

Q 一番初めの練習のとき、どのよう  
に感じられましたか。



2番員 中河 由貴さん

引き受けた責任感の一方で、続  
けていけるのかという不安でいっ  
ぱいでした。

ホースの延長と伝令を担当する二  
番員。操法ではホースがまっすぐ伸  
びることが大きな意味を持つため、  
中河さんのプレッシャーは大変なも  
の。あまりの厳しさに、心の中で葛  
藤があったことを明かしてくれまし  
た。

また、他の隊員さんたちも、「大変  
なことを引き受けてしまった」とこ

んなキビキビとした動きが自分で  
できるのか不安だった」と言われてい  
ます。  
そんな厳しい練習が始まって一か  
月余り、取材にうかがうと当初のプ  
レッシュャーをのりこえ笑顔で練習を  
行っていた隊員のみなさん。概ねそ  
れぞれの動きも把握されていて、し  
っかりと動かれているように思われ  
ました。



敬礼1つをとっても、様々なことが  
要求される

厳しい練習の中で

練習は毎週二回、大会が近くなる  
と週三回のペースで、仕事を終えた  
午後八時から十時まで行われていま  
した。

その成果があつて、二回目の取材  
のとき、練習風景を見ていた人々か  
ら「形や動きが綺麗になってきた」  
との声がかれました。

その理由を尋ねてみると、練習が  
ない日でも個人的に消防署へ特訓に  
出かけ、日々研鑽を積み重ねていま  
うです。

不安や戸惑いだらけのスタートか  
ら、個人練習を自主的に行うまでに  
成長した隊員のみなさんにどんな心  
境の変化があつたのか、尋ねました。

Q 練習で辛かったことや、心境の変化  
などはありましたか。



1番員 平山 美幸さん

練習の中で、なかなか思うよう  
に操作ができず、わからなくなっ  
て行き詰ってしまったこともあり  
ました。また、引き受けたときは  
あまり意気込みもなかったのです  
が、事の大きさに気づいたとき、  
中途半端にして後悔するようにな  
るとだけはしたくないと思い、練習  
に励みました。



隊長 藤川 弘美さん

集まった隊員の職業は違うし、  
年齢差も大きく、最初はうまくい  
くか心配でした。「全国大会」と  
いう大きな目標で練習を重ねるつ  
ちに、意気統合して本番に臨みま  
した。大きな失敗もなく、タイム  
も私たちにとってはベストでした。  
消防署や地区の消防団のみなさ  
まには大変お世話になりました。